

魔界ってほん魔界!?

第17界

京の魔界を巡礼し、そのナゾに迫る「京都魔界巡礼団」。そのオカルト・古代史マニア集団が「京都チャンネル」に乗り込み魔界紀行番組を作ったと聞いて、奇々怪々興味津々と参加志願をした本誌編集部員達。さて魔界の真の姿とは…



中山団長

南副団長

「京都魔界巡礼団」

■レギュラー団員■

小嶋伸一 (ディレクター)・佐々木昇 (アシスタントディレクター)
丘真奈美 (放送作家・超古代史ジャーナリスト)・加納進 (京都の史跡を訪ねる会長)

日向レイラインの背後にあるもの



1:25000地形図に書いたレイライン

京のミニ伊勢日向大神宮御神体山・日御山から出て平安神宮の大鳥居を抜けて御所・清和御門から御所へ入ったレイラインは見事に「伊勢の氣」を御所へ運んでいた。ここでちょっと気になる事が…団員ら誰ともなく「日御山の反対側には何かがあるやろ?」そこで再び地図上で計測してみる事に。そしたらやはり怪しいものが…

地名に刻まれたレイラインの入り口



地下鉄東西線「御陵駅」

レイラインが出た日御山の反対側は山科区だった。ここに気になる地名がある。「日ノ岡」。かつては京阪電車京津線の駅名にもなっていたが何やら太陽と関係がありそうだ。確かに京都市内から見れば山科方面は「日が出る岡」だ。そう、京都へのレイラインの入り口は実はここだったのだ。そしてさらに地下鉄東西線の駅名に気になるものが…「御陵」、「みささぎ」とは高貴な人の墓を示す。その墓とは?



天智天皇陵の謎のオブジェ

超古代史ジャーナリスト／丘真奈美
京都魔界巡礼団団員
天皇陵謎のオブジェ

「お墓?」そうだ…不思議に思っていた墓があった。三条通り沿いにある天皇陵。それは天智天皇陵だ。それにしても不思議な場所にある。団員みんなが口々に「ああアレがあるとこや!」と叫んだ。疑問に思っていたのはその陵墓の入り口にある妙なオブジェ。これは一体何なのだ? アジト・京都チャンネルであれこれ考えながら現場に急行する事にした! 果たしてそれは…次回、乞うご期待!

【魔界TVシリーズ再放送予定の問い合わせ先】

京都チャンネル (スカイパーフェクトTV ch.726)
http://www.kyoto.channel.com/ 075-253-0609 (FAX)

自己主張の強いラーメン屋

俺が食べ育ったホンマもんの味 俺の想いを込めた俺のラーメン

「漫画家・本宮ひろし好きと推測されるラーメン屋」との弊誌編集長の情報を得て、真相解明すべく早速現場へ。すると看板に掲げる店名は「俺のラーメン」! まさしく「俺の空」へのオマージュに違いないと確信し暖簾をくぐると、「俺」という一人称を体現した様な大将の姿が。数分後、注文したラーメンを前に、「俺が小さい頃食べてたホンマもんの京都ラーメン」と豪語する大将。で、お味は…。ナルホド、一度食べたら「俺(私)」のラーメン殿堂入り!



ラーメンしょうゆ(並) 650円。農家から直接仕入れる九条ねぎ等の食材を、化学調味料は一切使用せず、素材本来の旨味を大切に作る



●俺のラーメン

■京都市中京区西ノ京北門町1-8
☎075-461-2955
●11:00~22:00 (土日祝~20:00)
/木休



西大路通丸太町を上がるとスグ目に付く「俺のラーメン」。因みに「俺の空」との因果関係は無いとの事



「89歳まで生きられます。結婚は4年後、子は2人…。手をまさぐりながら鑑定していくお爺ちゃん

夜な夜な銀行前に出没する 価格破壊のサイキック翁

「河原町御池のあおぞら銀行前に夜な夜な無料占いのお爺さんが出没するの!」。占い好きのA子さんから寄せられた情報を元に現場へ行ってみると…ホンマにおも〜! しかも「本日無料」って書いてある〜! 毎日無料なんじゃ?と突っ込みたい気持ちを押さえて彼に接近。「占い方法? 星の動きと霊視。うん、顔を見たらだいたい分かる。確認のために手相もね」。ス、スゴイ。そんなサイキック爺だとは。確かに無料占いで生活していること自体神がかり的だ。

お爺ちゃんの出没時間は、平日17時30分頃~20時頃、土日祝11時~夕方。無料といえども「重ならない子供たちのための募金もぜひ」

タダで未来がわかる新名所

太夫とは? 第十一幕「太夫の髪形」編

「正五位」の別荘で、歌舞音曲の他、茶・華・香・歌など公家や武家の奥方同様の知識を持った芸妓に与えられた妓女の最高官位のこと。現在は6花街のうち京都・嵯原のみに4人現存し、司太夫はその内のお一方。中学卒業後祇園甲部で舞妓となり、6年勤務めその後太夫への道に進む。芸界の他、日本画・写真・手話を勉強し、フリーペーパー「こったい新聞」の発行やイベント企画など活動の場は広い。

華やかな頭も重さ3kg、重宝ゆえに重宝ゆえに



Tsukasa

これは「おふく」という太夫だけが結うことのできる髪形。髷だけでもなんと19本、着物などを含めると約30kgも身に纏っていることになる。華やかなイメージが先行する太夫だが、実は歩くだけでもかなりの重労働



日本で日本髪を地毛で結うのは、うちら太夫と舞妓とお相撲さん(笑)。舞妓の髪形は5種類と少のおすけど、太夫の髪形は何と37種類(※注1)もあんのどすえ。その中には、舞妓の結う髪形もおすけど、重さが全然違います。日本髪を結うには色々道具が入るのですけど、舞妓は一度結うと5日~1週間もたせませすし道具も小そうて軽おす。ところが太夫は大きい結うので道具も大きく重おして髷まで押したら3kgにもなり、一番重いときには5kgにもなんのどす。太夫は仕事の時しか結わへんのどすけど、重たいもたへんのどす。太夫しか結えへん頭もあるし、武家の奥方が結う頭(長舟・片外し)や「おすべらかし」もあり。昔は髪形で身分などを表していたので太夫の位の高さがここにも証明されています。けど、重たいし慣れへんうちは肩凝りますえ〜。

注1:かつては37種類あったが、文献や資料だけでは復元できないものもあり、現存する髪形は23種類。

司事務所

075-594-0568
http://kyoto.cool.ne.jp/tukasa21